

# 新臨床研修制度における病院図書室の役割 — 図書室担当者と研修医へのアンケート調査からの分析 —

天野 いづみ 望月 雅子<sup>1)</sup>

静岡赤十字病院 医学図書室

1) 袋井市立袋井市民病院 図書室

**要旨：**新臨床研修制度が始まり、臨床研修病院においても研修が始まった。病院図書室が提供する医学情報や設備は、大学図書館に比べ規模が小さく、今後、病院図書室機能の充実が望まれる。そこで、臨床研修を支援する図書室と担当者の役割を検討するため、臨床研修指定病院 157 病院に対し、研修医に提供する情報源や担当者によるオリエンテーションの実施状況、および研修医の要望するデータベース等についてアンケートを実施した。結果、図書室担当者 93 名、研修医 383 名から回答を得た。各病院では、臨床研修にむけて新たに単行書や雑誌が購入されていたが、Evidence-Based Medicine (EBM) 実践に必要なデータベースである「UpToDate」、「今日の診療」の導入はそれぞれ 22.9%、19.7%とわずかであった。また図書室担当者のオリエンテーション実施は 58%であった。魅力ある臨床研修病院をアピールする上でも、図書室の機能向上が望まれる。また担当者は、オリエンテーションを実施し、図書室およびデータベースが効果的に活用されるよう積極的な支援をすることが必要である。

**Key words：**病院図書室、卒後研修、オリエンテーション、医学情報データベース、図書館サービス

## I. はじめに

平成 16 年度から新臨床研修制度が開始された。この制度では、卒後臨床研修が必修化され、今までで大学で研修を行っていた多くの研修医が、新制度のマッチング方式により臨床研修指定病院において研修を行うこととなった。病院図書室は、大学附属図書館に比べ、図書・雑誌の蔵書数や電子ジャーナル、検索データベース等の情報量、インターネット環境の規模に大きく差がある。しかし、研修医が必要とする情報は、大学においても病院でも同等であるため、今後、病院図書室機能の充実が望まれる。

厚生労働省の臨床研修病院指定申請書には、図書室の項目があり、臨床研修に必要な図書、雑誌、インターネット環境、そして Medline 等の文献データベース検索の利用環境が整備されていることが原則であると明記されている。また、学生がインターネットで閲覧する臨床研修プログラム検索サイト「REIS

(Residency Electronic Information System)」<sup>1)</sup>、PMET (Foundation for Promotion of Medical Training)「臨床研修病院ガイドブック」<sup>2)</sup>にも図書施設の環境の情報が掲載されている。

## II. 目 的

新制度により充実した図書室、情報利用環境が必要とされているが、実際に研修医にとってどのようなデータベースが利用されているか、図書室が十分に活用されているか、研修医の利用とニーズを調査し、理想的な図書室の情報利用環境を検討する。

## III. アンケート調査

### 1. 対象

厚生労働省の臨床研修プログラム検索サイト<sup>1)</sup>より、研修医を受け入れている赤十字病院と東海地区の病院を中心とした臨床研修指定病院 157 病院 (研修医 1,545 名) を対象とした。

2. 実施期間

平成 17 年 3 月～5 月

3. 方法

アンケートは、各病院の臨床研修担当係へ郵送し、図書室担当者と研修医へアンケートの配布と回収を依頼した。

4. 内容

- 1) 図書室の 24 時間利用について
- 2) 研修医用の図書、雑誌、電子ジャーナル購入状況
- 3) データベースの導入、活用状況
- 4) インターネット環境について
- 5) オリエンテーションについて
- 6) 図書室への要望

IV. 結 果

アンケート回答数は、93 病院の図書室担当者（回答率 59.2%）、研修医 383 名（回答率 24.8%）であった。

1. 「図書室の 24 時間利用について」（アンケート

調査 1）

図書室が“24 時間利用できる”のは、83 病院（90%）であった。“利用できない”“無回答”は、10 病院（10%）であった（図 1 a）。

研修医の回答は、“利用できる”310 名（81%）、“利用できない”“無回答”は 73 名（19%）である（図 1 b）。

2. 「研修医用の図書、雑誌、電子ジャーナル購入状況」（アンケート調査 2）

研修医用に図書、雑誌、電子ジャーナルの 16 年度購入状況を担当者に行った。17 年度分の購入状況も回答してもらったが、年度の初めてであり、検討中との回答が多かった。

1) 図書（図 2 a）

“購入した”が 51 病院（55%）、“購入しない”が 42 病院（45%）。“購入した”と回答した 51 病院中 38 病院（無回答 13 病院）の購入金額は、3,700 円～150 万円で平均 22 万円、“購入しない”と回答した 42 病院の理由は、「予算がない」「購入希望なし」「十分に所蔵している」であった。

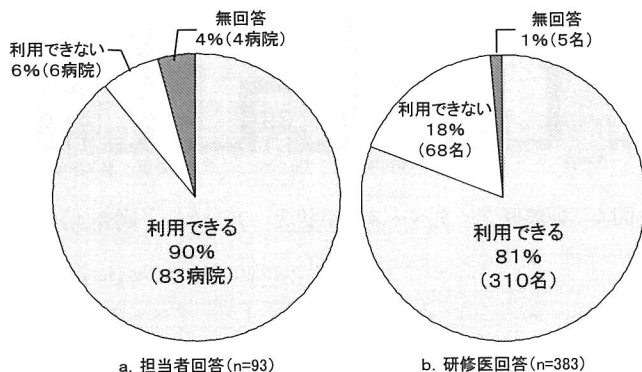


図 1 24 時間利用について (アンケート調査 1)

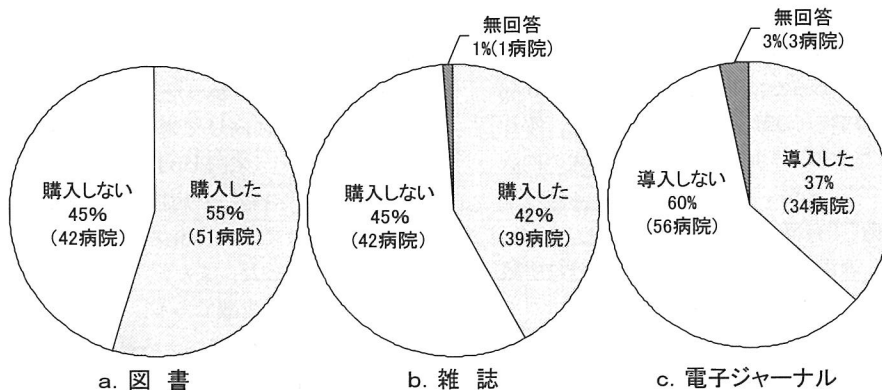


図 2 図書、雑誌、電子ジャーナルの購入状況 (アンケート調査 2) (n=93)

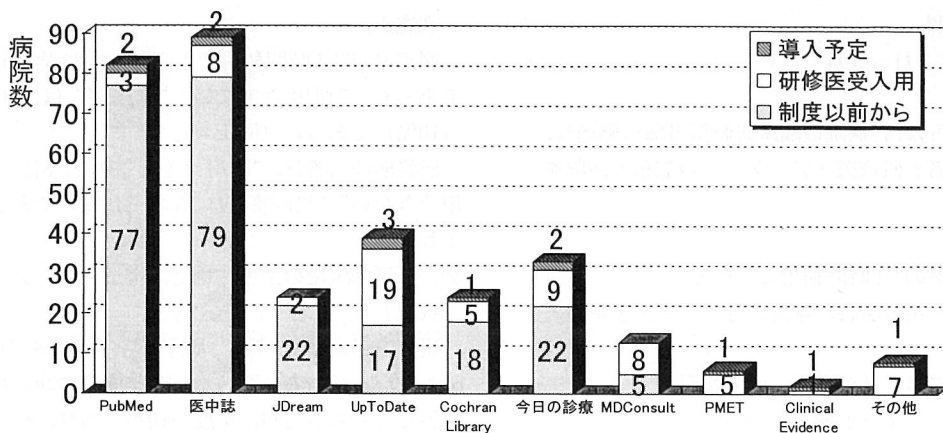


図3 データベース導入状況 (アンケート調査3)

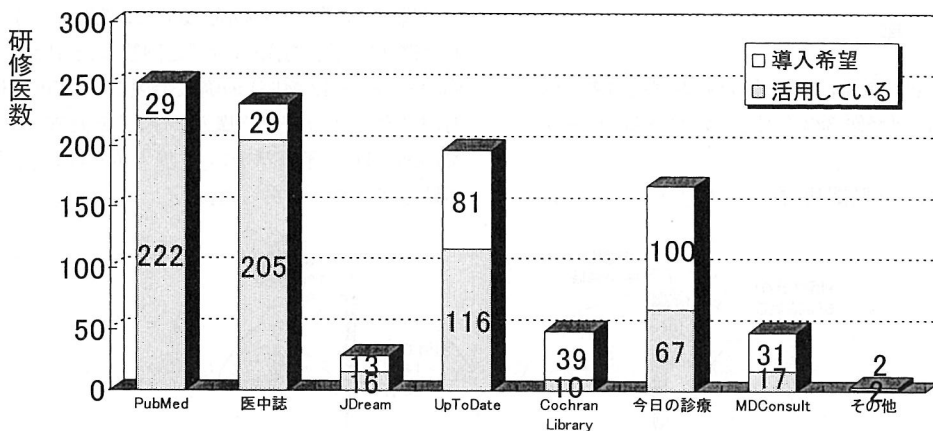


図4 研修医データベース活用状況 (アンケート調査4)

2) 雑誌 (図2 b)

“購入した”が39病院 (42%)，“購入しない”が42病院 (45%)であった。“購入した”39病院の雑誌数は1誌～10誌で平均2.2誌，“購入しない”回答の理由は、図書と同じ理由であった。

3) 電子ジャーナル (図2 c)

“導入した”が34病院 (37%)，“導入しない”が56病院 (60%)であった。“導入した”34病院中16病院 (無回答8病院)の雑誌数は1誌～70誌，平均34.3誌であった。そして電子ジャーナル導入の内訳は、「大学とのネットワークで利用可能」「無料電子ジャーナル整備」「有料パッケージ製品」であった。“導入しない”理由は、「予算がない」「十分に所蔵している」「環境が整っていない」であった。

図書、雑誌、電子ジャーナルの中では、図書を充実させた病院が多いようであるが、研修医用としては、特別に予算を立てなかった病院もあった。

3. データベースについて

1) 「データベース導入状況」(アンケート調査3) (図3)

新研修制度以前に導入していた情報源・データベースは、「医学中央雑誌(医中誌)」(医学中央雑誌刊行会)79病院、「PubMed」(米国国立医学図書館：The National Library of Medicine)77病院が全体の83%～85%と多かった。

研修医受入に向けて導入したデータベースは、「UpToDate」(米国 UpToDate 社)19病院、「今日の診療」(医学書院)9病院等であった。臨床研修指定病院であっても、有料データベースを導入していない病院もあった。また、今後導入を予定しているデータベースも少数である。

2) 「研修医のデータベース活用状況」(アンケート調査4) (図4)

研修医が、多忙な研修業務の中で活用できたデー

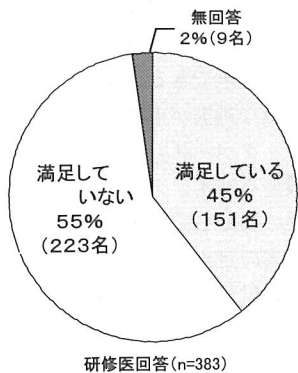


図5 インターネット環境について (アンケート調査5)

データベースは、「PubMed」222名、「医中誌」205名、「UpToDate」116名、「今日の診療」67名が多かった。

今後、図書室に導入を希望するデータベースは、「今日の診療」100名、「UpToDate」81名であり、「UpToDate」に関しては、個人で契約している研修

医もあり、図書室でも利用できるようにとの希望があった。また、1年目の研修医の中には、データベースの内容がわからず判断できないとの回答もあった。

4. 「図書室インターネット環境について」(アンケート調査5) (図5)

“満足している”との研修医回答は、151名(45%)，“満足していない”は、223名(55%)だった。満足していない理由としては、「台数が少ない」「研修医室で使えない」等、また速さよりも台数の不満が多くみられた。

5. オリエンテーションについて

1) 「オリエンテーションについて；担当者回答」(アンケート調査6)

“オリエンテーションを実施した”が54病院(58病院)，“実施しない”が39病院(42%)であった(図6 a)。オリエンテーションの内容は，“利用案内”21病院(38%)，“検索指導”3病院(5%)，“利用案内と検索指導”24病院(44%)であった(図6 b)。

2) 「オリエンテーションについて；研修医回答」

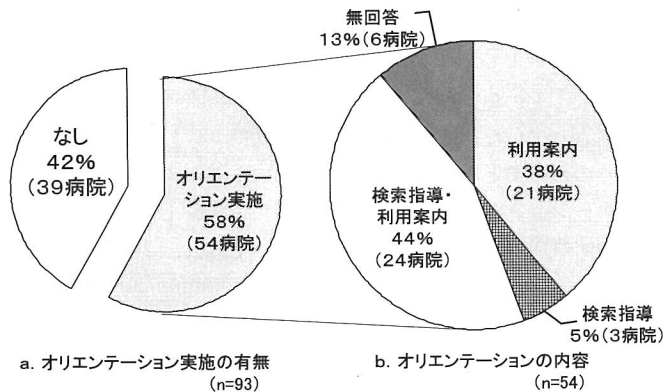


図6 オリエンテーションについて；担当者回答 (アンケート調査6)

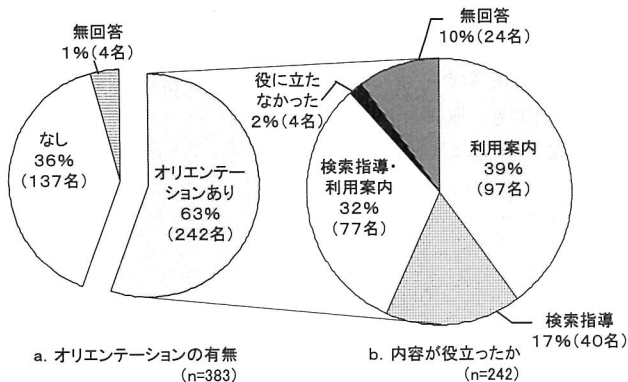


図7 オリエンテーションについて；研修医回答 (アンケート調査7)

### (アンケート調査7)

“オリエンテーションあり”が242名(63%)，“オリエンテーションなし”が137名(36%)であった(図7a)．オリエンテーションを受けた242名のうち，“利用案内”が97名(39%)，“検索指導”が40名(17%)，“検索指導と利用案内”が77名(32%)が役に立ったと回答があった．しかし4名(2%)が“役に立たなかった”と回答した(図7b)．

### 6. 「17年度に新たに行った取り組みについて」(アンケート調査8)

新制度開始から1年を経て，2年目に備え，図書室が新たに行った取り組みを聞いた．

「電子ジャーナルの導入」「インターネット用パソコンの増設」「図書室の拡張」「研修医図書コーナー設置」「古い図書の廃棄」「データベース利用説明会の開催，回数を増やした」等の回答があった．

### 7. 「図書室に関する要望」(アンケート調査9)

「24時間利用可能，利用を簡便に」「ローテート各科の基本的テキストの講入」「研修医向けの雑誌の講入」「環境を整えて欲しい(広いスペース，明るい図書室，椅子や机の増設)」「蔵書検索ができるように」「パソコン台数の増加，高速インターネット」「検索指導を希望」等の要望があった．

「24時間利用できるように」との要望が多くあったが，オートロックが設置されていないため，離れた当直室に鍵を取りに行くのが不便という理由である．また図書室オリエンテーションが行われていないため，24時間利用可能が研修医に伝わっていない現状も見受けられる．

## V. 考 察

1. 臨床研修に必要な条件のひとつに「24時間サービスの図書館整備」<sup>3)</sup>がある．いつでも図書室が利用でき，研修に必要な情報を入手できることが重要だと考える．
2. 病院見学やインターネット検索等で魅力ある臨床研修病院をアピールする上でも，限られた予算を有効に活用し，研修医にとってニーズのある

「UpToDate」「今日の診療」等のデータベースの導入，また研修に役立つ各科の基本的図書や研修医向け雑誌が提供できるよう，ハード面としての情報源の適確な選択が重要である．

3. 情報源データベースの検索，収集のためにパソコンの増設や高速インターネットなどのインターネット環境の整備と充実が必要である．
4. 厚生労働省の定めた行動目標の中に「問題対応能力」を身に付けるためにEBMの必要性が挙げられている<sup>4)</sup>．図書室担当者の役割として，研修医がデータベースを活用し，EBMを理解し，臨床の場において実践できるよう，オリエンテーションを行い，図書室の利用案内やデータベースの検索指導等，積極的な支援をすることが必要である．  
今回のアンケート調査により，研修医の声を直接聞くことができ，オリエンテーションの重要性を実感した．また今後の図書室整備の参考にしていきたい．

本稿は，第22回医学情報サービス大会(平成17年7月9日)と第41回日本赤十字社医学会総会(平成17年10月6日)での発表データをまとめ過筆したものである．

## 文 献

- 1) 厚生労働省．臨床研修プログラム検索サイト REIS (Residency Electronic Information System)．[2005.3.1]．<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>
- 2) 臨床研修協議会(監)．財団法人医療研修推進財団(編)．臨床研修病院ガイドブック2005年版 [2005.3.1]．<http://www.pmet.or.jp>
- 3) 重川須賀子．臨床研修に向けた病院図書室の取り組み．ほすびらいぶらり 2005；30(1)：21-4．
- 4) 清水貴子．新臨床研修制度と病院図書室の役割．ほすびらいぶらり 2004；29(3)：140-7．

# Role of Hospital Libraries under The Renewed Medical Internship Program

—Analysis based on a questionnaire survey to librarians and residents—

Izumi Amano, Masako Mochizuki<sup>1)</sup>

Library, Shizuoka Red Cross Hospital

1) Library, Fukuroi Municipal Hospital

**Abstract :** The renewed medical internship program has come into effect and hospital libraries are required to offer services to residents. In order to review the role of libraries and librarians under the new medical internship program, questionnaires were sent to a total 157 hospitals and the responses were obtained from 93 librarians and 383 residents. The finding shows that the hospitals have been purchasing monographs, journals and magazines; however the introduction of “UpToDate” and “Today’s Diagnosis and Treatment” required for Evidence-Based Medicine (EBM) is limited to 22.9% and 19.7% of the hospitals responded respectively. Furthermore, orientation seminars for the librarians are offered at 58% of the responded hospitals. To make an appeal as an attractive hospital that provides the medical internship program, the enhancements of the libraries are indispensable. Moreover, the librarians are required to implement orientation programs and actively support the effective utilization of libraries.

**Key words :** hospital libraries, orientation, postgraduate training, library services, medical information database